

発生した落石の危険性、重大性を過小とする会社は安全軽視だ！

1月21日、JR東海労名古屋地本は昨年8月27日に発生した飯田線湯谷温泉駅、三河榎原駅間の落石について、これまで落石に関して安全を求めて業務委員会を開催して来たにもかかわらず十分な対策が取られていないと申7号提出し業務委員会を開催し安全に対する認識を迫りました。。

1. 今回の事象についてどのような事象であったのか明らかにすること。

回答：512M列車が湯谷温泉駅から三河榎原間の第2深谷トンネルの豊橋方において落石防護ネット内に岩が引っ掛かっているのを認め停車したもの。その後、落石防止網の中の岩を撤去し線路設備に異常のない事を確認し運転を再開した。

2. 落石の状況について明らかにすること。

回答：当該現場は落石対策工として落石防止網を設置しており、その防止網で覆われていた傾斜面上部の露出した岩の一部が落下して落石防止網の中にとどまっていた。

3. 地元住民が落石をJRの連絡先に通報しようとしたが通じなかったと言われているがなぜ通じなかったのか明らかにすること。

回答：当社のすべての踏切には関係指令への電話番号（フリーダイヤルと固定電話番号）が明示されている。

4. 落石警報装置がなぜ作動しなかったのか、明らかにすること。

回答：当該斜面には落石対策（落石防止網）を実施しており落石検知装置は設置していない。

5. 今回の事象に対して当該乗務員は現場に停車し指令に報告し安全を守った。この事に対して表彰すること。

回答：個別の事象に対する現場での表彰の有無は当該事象が発生した状況、乗務員の取り扱い等を総合的に勘案して判断している。

【会社との議論】

組合：今回落石した岩の大きさと重さはどれくらいであったのか。

会社：大きさは1.5×1.0×0.3で重さ判らない。

組合：岩の取り除き方はどの様に行ったのか。

会社：岩を細かく砕いて取り除いた。

組合：岩のせり出し方はどうであったのか。
会社：ネットの中で止まっていた。列車には支障なかった。
組合：乗務員の報告、工務区の話では止まらなければ列車に当たると状態であったと聞いている。ネットごと線路にせり出していたのではないか。写真はないのか。
会社：写真はない。
組合：現場検証をして写真を写しているのではないか。
会社：お見せ出来る写真はありません。
組合：会社は状況を正確にい掴んでいないのか。では車両限界はどうであったのか。
会社：今は判らない。
組合：回答時に写真等の状況が判るものを見せるべきではないか。
会社：調査して報告します。
組合：電話が繋がらなかった、どうであったのか。
会社：その日の、その時間帯は指令員は電話を受け取れる状況であった。
組合：踏切に設置されている電話からの頻度はどれくらいあるのか。
会社：時々、踏切故障などで通話がある。
組合：対策としてどの様にしていたのか。
会社：この線区は落下する可能性が高いので対策はしていた。
組合：数年前は第1トンネルでも発生している。今後の対策は。
会社：せり出し具合を見ながら必要な対策を行う。
組合：飯田線はどこでも落ちる可能性がある。人が足りないのではないか。もっと要員を配置し日常的な調査と点検を頻繁に行うべきである。
会社：当然、発生した時は要員を送っている。調査は名古屋技術土木センターが行っている。
組合：今後の対策として落石警報装置を設置すべきではないか。
会社：落石検知網は付けない。
組合：落石防止ネットが十分機能してたのか。落石防止ネットだけの対策は不十分である。
組合：乗務員の表彰はしているのか。
会社：していない。
組合：何故しないのか。誰が決めるのか。その場合の基準は。
会社：総合的な判断である。
組合：足し算、引き算をしたのではないか。JR会社として安全文化をどう作るのかである。列車を躊躇することなく止めることは安全を守る風土を作ることである。

その後の会社の調査報告

- ・車両限界に達していた。だが脱線するところまでにはなかった。
- ・対策としてネットの張り方を変え同様な事が起こらないようにした。
- ・写真はお見せする様なものがない。

以 上